

報道機関各位

ソニックウォール・ジャパン株式会社

## サイバー攻撃の急増による地政学的不安を受け、サイバー対策に劇的な変化が生じていることが最新の SonicWall 脅威レポートにより明らかに

- 2022 年上半期に 28 億件のマルウェア攻撃(11%増)を記録 – 世界のマルウェアの数量が 3 年ぶりに急増
- ランサムウェアの数量は全世界で 23%減少した一方で、欧州では 63%増加
- 減少傾向ではあるものの、年間累計のランサムウェアの数量は 2017 年、2018 年、2019 年の通年合計を上回る
- 金融分野のサイバー攻撃が激増: マルウェアが 100%増加、ランサムウェアが 243%の急増、クリプトジャックが 269%増加
- 「未知の」マルウェア亜種が 45%増加し、SonicWall が 2018 年に追跡を開始して以来 21 倍増
- 暗号化された脅威は前年比 132%増、IoT マルウェアは前年比 77%増

カリフォルニア州ミルピタス(米国時間 2022 年 7 月 26 日配信のプレスリリース抄訳)–世界で最も引用の多いランサムウェア脅威インテリジェンスを提供する SonicWall は本日、2022 年版 SonicWall サイバー脅威レポートの中間アップデートを発表しました。SonicWall Capture Labs が調査し編集した最新レポートでは、世界のマルウェアが 11%増加したこと、IoT マルウェアが 77%急増したこと、暗号化された脅威が 132%増加したこと、ならびに、地政学的対立がサイバー犯罪者の活動に影響したことによりランサムウェアの数量に地理的なシフトが見られたことが指摘されています。

SonicWall の社長兼 CEO のビル・コナーは、次のように述べています。「サイバー対策競争において、サイバーセキュリティと地政学は常に切り離せない関係にあり、この 6 か月間、私たちはサイバー情勢全体にわたってそれが展開されているのを目の当たりにしてきました。サイバー戦争の前線は変化しており、当社のデータによると、ヨーロッパではランサムウェアが 63%増加し、金融分野の企業を標的とした協調的攻撃が行われている一方で、他の地域ではランサムウェアの数量が減少しています。暗号化された脅威、IoT マルウェア、クリプトジャック、未知の新種が大幅に増加する中、サイバーセキュリティリーダーは、自社のビジネスに対して巧

「妙化する標的型の脅威を予防的に検知して対処するために必要なすべてのツールと技術を持つことが重要です」

厳しい経済情勢にもかかわらず、新規顧客 33%増、新規顧客の売上高 45%増など SonicWall は堅調な財務業績を収めました。さらに SonicWall のクラウド提供製品とサービスは、前年比 36%増と驚異的な成長を遂げています。新しい Generation 7 製品は過去 1 年間の売上の 90% を占めました。

## 脅威の情勢の変化に応じ欧州で急増するランサムウェア攻撃

記録的な高水準となった 2021 年を経て、2022 年上半期はランサムウェア攻撃全体が減少傾向にあり、世界的に見ると 4 四半期連続で減少しています。政府の制裁措置、サプライチェーンの不備、暗号通貨の価格の下落、必要なインフラ利用の制限などが、サイバー犯罪者にとって不利な状況を生み出しています。2022 年 6 月のランサムウェアの月間数量は過去 2 年間で最低であり、世界全体の数量減少の一因となっているなど、SonicWall 独自の脅威インテリジェンスでもこの分析が裏付けられています。

コナーは次のように語っています。「攻撃者が手口を多様化し、攻撃経路の拡大を狙っていることから、今後 6 か月間だけでなく、今後数年間にわたって世界のランサムウェアの数量は増加していくと予想されます。地政学的な混乱が続く中、サイバー犯罪はますます巧妙化し、脅威、ツール、標的、場所も多様化しています」

世界のランサムウェアは年初の時点では減少しましたが、ヨーロッパではマルウェア攻撃（前年比 29%増）とランサムウェア攻撃（63%増）の大幅な増加が見られました。数量ベースで見ると、ランサムウェアの標的となった上位 11 か国中 7 か国がヨーロッパ（英国、イタリア、ドイツ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ウクライナ）であり、この地域のサイバー脅威の情勢が変化していることがうかがえます。

## 世界的にはマルウェアが 11%増加するリバウンド傾向

2021 年のマルウェアの数量はやや減少しました。これは 3 年連続の減少となり、過去 7 年間で最低となりました。しかし、[2022 年版 SonicWall サイバー脅威レポート](#)で予測されているように、2021 年下半期に攻撃が急増したことによるリバウンドが予想されます。2022 年上半期に 28 億件を超えるマルウェア攻撃が発生したことから、そのリバウンドが実感されます。北米では、同時期に暗号化された脅威が 284%、IoT マルウェアが 228%という驚くべき増加を記録しています。

ランサムウェアの件数の推移と同様に、米国(-1%)、英国(-9%)、ドイツ(-13%)などの典型的な多発地域ではマルウェアの数量が横ばいまたは減少し、ヨーロッパ(29%)とアジア(32%)では総じて増加しています。

新たな脅威に関する SonicWall のエキスパートであるイマニュエル・チャボヤは、次のように述べています。「国際的な脅威の状況には活発な動きが見られており、ヨーロッパだけでなく、米国における課題も大きく変化しつつあります。サイバー犯罪者は、サイバーセキュリティ業界を出し抜こうとこれまで以上に躍起になっています。また、サイバー犯罪者の組織では、彼らが標的とする多くの企業とは異なり、組織内のスキル、モチベーション、専門知識、資金が潤沢に揃っている場合が少なくありません」

金融分野では、マルウェア攻撃の 100%増のほか、ランサムウェア攻撃(243%)とクリプトジャック攻撃(269%)の急増が見られました。

## 「未知の」マルウェア亜種の発見件数が過去最多

SonicWall の特許取得済み Real-Time Deep Memory Inspection™ (RTDMI) テクノロジーは、2022 年上半期に 270,228 件の「未知の」マルウェア亜種を特定しました。これは前年同期比 45%増となります。2022 年 3 月に過去最多の発見数(59,259 件)を記録するなど、2022 年第 1 四半期の「未知の」マルウェア発見数は過去最多(147,851 件)となりました。

2018 年初めに RTDMI を導入して以来、2022 年 6 月までに発見された新しい亜種の件数は 21 倍に上っています。これらは、従来のサンドボックスによるアプローチでは検知できない、新しい、未知のサイバー攻撃です。

SonicWall サイバー脅威レポート 2022 年中間アップデート全文は [sonicwall.com/ThreatReport](https://sonicwall.com/ThreatReport) でご覧いただけます。

## SonicWall Capture Labs とは

SonicWall Capture Labs の脅威研究者は、約 215 の国や地域をカバーした 100 万を超えるセキュリティセンサーなど、世界各地のデバイスとリソースで構成される SonicWall Capture Threat ネットワークから脅威情報を収集し、分析および検証します。10 年以上前に世界で初めて人工知能を脅威の調査と保護に使用した SonicWall Capture Labs は、このデータを厳密にテストおよび評価することで、電子メールの送信者とコンテンツの評判スコアを設定し、新しい脅威をリアルタイムで識別します。

## SonicWall について

SonicWall は、Boundless Cybersecurity を提供することにより、誰もがリモート/モバイルで危険にさらされながら仕事をするという超分散化時代のビジネスの現実に対処します。SonicWall はシームレスな防御を提



供し、非常に巧妙なサイバー攻撃を阻止します。これによって、無限に存在する脆弱性ポイントすべてを保護し、リモート勤務やモバイル化、クラウド利用を活発に進める人員を守り、ひいてはビジネスのニューノーマルに対応すべくモバイル化を進める組織のセキュリティを確保します。未知の領域を探求し、リアルタイムの可視性を提供しながら経済の大躍進を実現している SonicWall は、サイバーセキュリティ業務上の課題を解決して世界中の企業や政府、中小企業をサポートします。詳細については、<https://www.sonicwall.com/ja-jp/>をご覧ください。また、[Twitter](#)、[LinkedIn](#)、[Facebook](#)、[Instagram](#) で当社をフォローしてください。

#### 報道関係者様からのお問い合わせ先

ソニックウォール・ジャパン株式会社 PR 担当

[Japan\\_SNWL@SonicWall.com](mailto:Japan_SNWL@SonicWall.com)